

スマートウエルネスみしまの取組

アナ： 『市長が語る2022三島』第8回の今日は、スマートウエルネスみしまの取組みについてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 早速ですが、「スマートウエルネスみしま」とはどのようなものなのでしょうか。

市長： 三島市では、あらゆる分野に健康の視点を取り入れる「スマートウエルネスシティ構想」による健幸都市づくりを進めておりまして、今年で11年目となります。

スマートウエルネスシティ構想とは、「健幸」をまちづくりの中核に位置付け、保健医療分野だけで健康増進を図るのではなく、生活環境や地域社会、学校や企業などあらゆる分野を視野に入れ、人も都市も産業も健康にするという取り組みです。

その三島版が「スマートウエルネスみしま」になります。

ここで言う「健幸」は、健やかで幸せという字を当てておりまして、三島に住んでいると、健康づくりを特に意識しなくても、毎日の生活が健康に繋がり、幸せになる、というようなまちづくりを目指しています。

アナ： これまで、どのように取り組んでこられたのですか。

市長： 私が市長に就任した当初、少子高齢化がますます進んでいく状況であるにも関わらず、一貫した健康づくりを政策として進めている市町があまりないように感じました。

そのような時に、一貫した健幸施策に取り組んでいる市区町村が参加している「スマートウエルネスシティ首長研究会」を知り、三島市は、19番目、平成23年に加盟しました。

現在は116市区町村になっています。

今月25日、26日には、全国の加盟自治体の長が一堂に会する同研究会を三島市で開催いたしますので、そこで「スマートウエルネスみしま」の取り組みを改めて全国に発信していきたいと考えております。

また、令和4年度からは、これまでのプランより実効性を高めました「第4期スマートウエルネスみしまアクションプラン」を新たにスタートし、引き続き、市民のみなさま、民間企業のみなさまと様々な取り組みを進めていきます。

アナ： スマートウエルネスみしまアクションプランとは、どのようなものですか。

市長： 三島市の目指す「健幸都市づくり」を「卵」に見立て、一番の核となる卵の黄身となる部分を「人の健康づくり」、白身の部分を「いきがい、きずなづくり」、そして殻の部分を「地域活性化・産業振興」というふうに例えています。

健康でいると活動の意欲がわいてきます。外に出かければ人と出会い、

人との交流が広がります。そして、交流が広がると、地域のきずなが生まれ、人が集まるところには、にぎわいが生まれます。

このつながりを意識して、市の若手職員らがアイデアを出し合い、5つの重点プロジェクトにまとめたものがアクションプランです。

アナ： 具体的にどのようなプロジェクトがありますか。

市長： 住宅団地にお住まいの高齢者の方が健幸に暮らせるための支援に総合的に取り組む「スマートウエルネスタウン」、人々が居心地よく過ごし、まちの魅力をつなぎ合わせる空間であるストリートを活用し、ふらっと立ち寄りたくなるイベントなどを展開していく「ふらっとミチクサ大作戦」、誰もがいくつになっても学び直し活躍することができることを目指す「リカレント教育」、三島市スマートシティ推進協議会などとの連携を図りながら、健幸アプリの作成や運用を進める「健幸DXの推進」、自転車でめぐっておすすめルートなどを発信していく「サイクリングライフのすすめ」などがあります。

その他にも、歩きたくなるウオーカブルまちづくりとしてガーデンシティみしまの推進や、市内企業の健康経営を支援する取り組みなども掲げています。

アナ： 多岐に渡り様々な取り組みをされているということですね。

それでは、その中から特に今年度おすすめしたい事業を教えてください。

市長： 健幸マイレージ事業がおすすめです。

「歯を磨く」「ウオーキングをする」など日々の簡単な活動でポイントがたまり、ポイントカードがすべて貯まったら景品に応募できます。

誰でも気軽に参加できるのが特徴ですが、今年度は、さらに、抽選の回数が2回になり、当選の機会を増やしました。

また、企業対抗コースを設け、企業の皆様の健康づくりにも活用していただけるようにしました。

健幸マイレージを活用して、市民、企業の皆様が、健康づくりを楽しんでくださることを心より願っております。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。